

「はやりやまい」の後先

～ヒトは「自然」から離れたがる？～

シンキング・バーズ

日本語研究班

ヒト同士を

「隔離」し合う社会へ？

拡散する感染症を言い表す日本語に、かつて「流行り病（はやりやまい）」ということばがありました。インフルエンザを指す医学用語として、「流行性感冒（略して流感）」ということばを使っていた時代がありました。感染症を、「流行りすたり」の現象と重ね合わせる認識法があったと言えます。

「流行りすたり」ならば、熱狂的なブームに沸き返った社会現象が、一年後には「いったいあれは、何だったの？」と言いたくなるくらい、冷めてしまうことは良くあることです。毎年のように変わる「流行」に一喜一憂し、「トレンド」なんてものを仕掛けたり、仕掛けられたりして、浮世を楽しんでいた人たちのなんと多かったことか！あなたたちの今年のトレンドは、「カラスの勝手でしょ」ですか？ たいていのヒトは、たぶん知っています。今年のトレンドは、まちがいなく「コロナ」です。

●触れ合えないことの反自然

新型コロナウイルスが、ここまですべての世界中に蔓延すると、「コロナの時代」のような設定で、言語活動をする人たちが増えるのは、必然的な現象と言えます。この災厄をどう乗り切る

かは、ワタシたち一人ひとりに降り掛かる問題で、それぞれに見解があるはずです。ただ、トンチンカンな見解は、ネット上の野次に翻弄されるリスクがあるのでしょうか。



ワタシは以前、「ソーシャル・ディスタンス」の「ソーシャル」って何？ という文章を書きました。納得できないことばのように思えたからです。その後、偶然目にした医学関係者のWEBサイトで、そのことばが、日本語で言う「隔離」を意味するらしいことを知りました。お医者様が、感染拡大防止のため、患者を「隔離」することを“Social distancing”と言うとすれば、「なるほど」と納得できます。まさにお医者様や未感染者と感染者の「社会的距離」を、意図的に離そうという意味だからです。

でも、ワタシたちが使い始めた「ソーシャル・ディスタンス」を、「隔離」の意味で理解すると、おかしいことになる気がします。だって、感染者かどうか分からない素人同士が、お互いに根拠なく「隔離」し合うんでしょ？ ワタシは「隔離」してるの？ されてるの？ テレワークって、つまりは「自己隔離」ってことですよ。

ヒトは、「自然」の一部です。でも、直接「自然」に触れることを嫌がり、そこから離れて生きることを「安全」とみなすとしたら、社会の在り方として、手さえ触れ合えない反自然的な「流行」と思えるのです。

(2020年7月27日)

シンキング・バース新書

ボクとワタシの日本語診断
「はやりやまい」の後先

2020年7月27日（初版）発行

著 者：シンキング・バース
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。